

革命の旗

共産主義者同盟
(革命の旗)
中央機関紙

第28号
1980.11.5
4頁 100円
(毎月5日、20日発行)

発行人 北沢 晋
発行所 赤流社
電話 (03)407-3511
東京都世田谷区千歳
郵便局 私書箱4号
振替 (東京)7-86947

年間定期購読料
開封2500円(送料共)
密封3000円()

お知らせ
赤流社電話番号が、十一月十日より次のように変わります。
旧 〇三四〇七三五一
新 〇三七七七六九九

闘争日程

11・29 共産同(革命の旗)関西講演集
「我々のプロレタリア革命の道」

11・12 金大中氏らに自由を、宇佐美暴言弾劾、安保粉砕、全通労働者決起集会(PM6、全通労働者ホール)、「労働情報」首都圏総局
11・15 東京労働学校講演会「刑法改憲阻止と労働運動」(PM6、品川文化会館、東京労働学校事務局)
11・16 監獄法一刑法改憲を許さない総決起集会(PM11:5、明大)
駿河台校舎十号館 監獄法改憲を許さない全国連絡会
11・22 刑法改憲一保安処分を反対する全国集会(PM6、社会文化会館、百人委員会)
11・30 金大中氏らへの死刑判決弾劾、安保粉砕、日朝労働者連帯をめざす東京集会(PM1、田町機械工具会館、集会実行委員会)

ブルジョア階級独裁国家に対する労働者階級の態度と戦列を整えよ

安保問題における社共の混迷と十・二一分裂収拾劇の実態

衆参同時選挙の勝利をテコに鈴木政権がますます戦争準備へとひた走るなかで10/21反戦集会が開かれた。日共の動員を軸として七万人が結集し、矢野公明書記長が演壇に立つと、一斉に「帰れ、帰れ」の大合唱が巻き起こるという実況に日共は、この集会は、当初安保問題をめぐって社共と分れて開かれたものであった。それは今日の国際・国内情勢の激動のなかで日米安保条約・自衛隊をどうにかする、反戦闘争をつくりだしていくのかの分岐であった。社会党は、非武装中立論のものと公明党との共闘を軸に、自衛隊を認め、戦線闘争の基本としており、連合政権・右翼的労働者階級の推進と結びついている。

小ブル平和主義内部での主導権争い

他方日共は、今日の「労働統一」の動きに統一労働者階級で対抗し、更に社会党が公民の主張にあわせるために日米安保体制・自衛隊の容認へとつき進むという右傾化を批判することによって、社共がなげすむたポロ旗を自らがうちふることで革新の旗手をめざしている。

安保問題における修正主義者の態度

しかしこの統一は一時的部分的なものであり、再分裂は不可避であろう。たとえば社会党は、党内綱領文書「日本における社会主義への道」の全面見直し作業をすす

進む強盗戦争準備 改憲策動の本質

八月二十七日の法相野田の「改憲」発言以降、国会審議の七割を占めた「憲法論議」は野田の「低調な追求」を尻目に、わが国のブルジョア階級の「第九条・天皇・基本的人権」に関する「改憲」姿勢をあらためてうきまわらせた。首相鈴木は「大臣の首つ飛び」ことなく、終つた「憲法論議」をしめくくり、「今回の論議を通じて改憲問題はタブーではなくなった。今後内閣として憲法を順守するが、(自主憲法制定)を政綱に掲げる」自民党としては自主憲法制定にむけ努力するという両面の対応が必要となってきた。と語り、ブルジョア階級から与えられた「戦争準備内閣」という任務を慎重かつ大胆に遂行することを明らかにした。

新旧修正主義のブル独への一層の忠勤

われわれは、このような集会を会をめぐるかけひきは、茶番劇にすぎない。しかし10/21集会に結集した多くの労働者は、今日の鈴木政権に反対する指針を求めていることは事実であり、また同時に彼らの多くがまだ社共の影響下にあることを、自ら回答をだすことのできるにいたる。

革命的な大衆行動の組織化へ

われわれは、このような集会を党の宣伝・煽動の舞台として十分に活用し、ピラ「社共」にかわる「労働者」を大量に配布した。われわれは、社共の制動のもとに労働者階級の決起をおしとめんとし、第二次プロレタリア革命の準備をすすめるべきである。

民衆連帯

金大中氏への控訴棄却判決弾劾！ 安保粉砕、日帝の植民地支配の 廃棄をめざす大衆行動をおこそう

血の光州弾圧以来、全軍政の全土戒厳令下で沈黙をしいられていた韓国の学生たちは、再びその不屈の姿を全世界の韓国人の目に現わしはじめた。

九月二日、全は「自信をもって大学の休校措置を解除した。そのわずか一月後の十月八日朝、韓国学生大で集まった約五、〇〇〇人の学生たちは「光州流血事件犠牲者の追悼式しよう」とプラマをまき、学外デモをこころみ、出動した警官隊は全員を連行し同



韓国学生の不屈の闘いに応え、安保粉砕よう自主的平和統一支持を鮮明にかか

校は即日、無期限休校となった。ところが五月の闘いの拠点である高麗大は、軍隊の常駐・監視がつけられていた。しかも十六日には「二二日からの新憲法国民投票を前にして全斗煥が、大統領就任（九月一日）後、初の記者会見を行い内外に政権の「安定」を誇示した直後のことである。

全軍政への怒りは、日帝追放へ

学生たちのスローガンには、「全斗煥退陣」とともに、「全斗煥を支持する日本帝国主义者の追放」がかかげられていた。事実、金大中氏への軍事裁判が進行する中、岸信介、金九、春日一幸、福田赳夫ら韓国ロビイストが訪韓している。彼らは「あなたは外科医として韓国を手術した。手術したらそのまま放置するわけにはいかない。最後までどけるべきだ（金九）」「全斗煥氏をバックアップしなければならぬ（春日）」と、韓国側はよい時にきてくれたという感じだ。政府は、日韓相互理解の増進に、格段の配慮をすべきだ（福田）と、こぞで全支持をぶちあげた。

共同した力で金大中氏ら救出を

軍政が「他国内政干渉には断固対処する」といって、日本政府は「内政不干渉」といって、重大な関心「いつとも判決文の入手を遅らせない。また韓民統の国連派遣回再入国を認めるという要求には、慎重に検討している」と言いつつ、通常のケースとは異なる「術提携などの関係をもっているが、整理対象からはずされている。つまり韓国経済を深刻な危機においこんだ根源である植民地経済（とくに日本との）にはならん手を

共同した力で金大中氏ら救出を

軍政が「他国内政干渉には断固対処する」といって、日本政府は「内政不干渉」といって、重大な関心「いつとも判決文の入手を遅らせない。また韓民統の国連派遣回再入国を認めるという要求には、慎重に検討している」と言いつつ、通常のケースとは異なる「術提携などの関係をもっているが、整理対象からはずされている。つまり韓国経済を深刻な危機においこんだ根源である植民地経済（とくに日本との）にはならん手を

共同した力で金大中氏ら救出を

軍政が「他国内政干渉には断固対処する」といって、日本政府は「内政不干渉」といって、重大な関心「いつとも判決文の入手を遅らせない。また韓民統の国連派遣回再入国を認めるという要求には、慎重に検討している」と言いつつ、通常のケースとは異なる「術提携などの関係をもっているが、整理対象からはずされている。つまり韓国経済を深刻な危機においこんだ根源である植民地経済（とくに日本との）にはならん手を

つげず、中小の系列会社を整理してより巨大な独占企業へと再編・育成しようとしている。このことが今まで以上に労働者に犠牲を強要し、生活苦を強いることは必至である。

金大中氏の軍事裁判でも、全軍政が「他国内政干渉には断固対処する」といって、日本政府は「内政不干渉」といって、重大な関心「いつとも判決文の入手を遅らせない。また韓民統の国連派遣回再入国を認めるという要求には、慎重に検討している」と言いつつ、通常のケースとは異なる「術提携などの関係をもっているが、整理対象からはずされている。つまり韓国経済を深刻な危機においこんだ根源である植民地経済（とくに日本との）にはならん手を

10・31 狭山再審勝利めざし前進しよう

「反差別共同闘争の広がり示す」

学生によって満員になっていた。解放同盟中央本部、狭山闘争委員からの基調は、鈴木政権の反動化と対決し、さまざまな被差別、被抑圧大衆との結びつきを強めていくこと、石川氏のスピーチが代読された。

「私一人の命が三百万同胞の命であること、聞いて、勝利の日まで闘いぬくつもりです」という石川氏の決意を、自らのものにせんとする熱い拍手で確認し、決起をかちとらねばならない。

10・19 三里塚総決起集会

闘う農業建設二期着工阻止

三里塚東京行動の最終日、十月十九日、代々木公園において大集会が開かれた。集会には柏崎で原発を闘う住民や、関西新空港建設反対運動の住民団体をはじめ、全国の労働者が参加した。反対同盟は、集会参加者を前に、本十月東京行動の成功と、菱田実験田として着手されている「闘う農業建設」の進展、二期着工阻止に向けて決意を明らかにした。反対同盟の決意をうけて、柏崎、関西、パライオン沿線住民、沖繩等、住民団体の発言が続き、おもしろい家族つれや竹の子族で混雑する代々木公園は、発言者の声に耳を傾ける人の波をつくりだしていった。更に、東京行動を献身的に担った青年行動隊の「われわれは、われわれの弱さをつみ隠すのではなく、逆に強さへと転化してきた。生きとし生ける者の糧をつくるわ

10・19 三里塚総決起集会

闘う農業建設二期着工阻止

三里塚東京行動の最終日、十月十九日、代々木公園において大集会が開かれた。集会には柏崎で原発を闘う住民や、関西新空港建設反対運動の住民団体をはじめ、全国の労働者が参加した。反対同盟は、集会参加者を前に、本十月東京行動の成功と、菱田実験田として着手されている「闘う農業建設」の進展、二期着工阻止に向けて決意を明らかにした。反対同盟の決意をうけて、柏崎、関西、パライオン沿線住民、沖繩等、住民団体の発言が続き、おもしろい家族つれや竹の子族で混雑する代々木公園は、発言者の声に耳を傾ける人の波をつくりだしていった。更に、東京行動を献身的に担った青年行動隊の「われわれは、われわれの弱さをつみ隠すのではなく、逆に強さへと転化してきた。生きとし生ける者の糧をつくるわ

10・19 三里塚総決起集会

闘う農業建設二期着工阻止

三里塚東京行動の最終日、十月十九日、代々木公園において大集会が開かれた。集会には柏崎で原発を闘う住民や、関西新空港建設反対運動の住民団体をはじめ、全国の労働者が参加した。反対同盟は、集会参加者を前に、本十月東京行動の成功と、菱田実験田として着手されている「闘う農業建設」の進展、二期着工阻止に向けて決意を明らかにした。反対同盟の決意をうけて、柏崎、関西、パライオン沿線住民、沖繩等、住民団体の発言が続き、おもしろい家族つれや竹の子族で混雑する代々木公園は、発言者の声に耳を傾ける人の波をつくりだしていった。更に、東京行動を献身的に担った青年行動隊の「われわれは、われわれの弱さをつみ隠すのではなく、逆に強さへと転化してきた。生きとし生ける者の糧をつくるわ

ポーランド問題 党の独裁か 階級の独裁か

「革命の旗」にもっと鋭い陣線を期待する

ポーランド問題、その党がマルクス・レーニン主義なのか、修正主義なのかの路線の問題である。この評価をめぐって党独裁一般のレッテル貼りは、過渡期社会での階級闘争を否定するものである。

また逆に労働者の自然発生性の延長に「自らの指導部」を夢想することは、労働組合への大衆の名を語ったセクト主義を生み出す。

労働組合運動をまじめにやるのでもなく、自らを党として鍛えることもなく、サークル主義にうつつをぬかしている諸君のポーランド労働者へのはかない「思い」を託した自己正当化に

差別との闘い 映画『沈黙の夏』をみて思うこと

日常生活を問うか、労働者階級の解放、全人類の解放を叫ぶ共産主義の政党である、差別意識から自由であるとはいえない。私たちは、このことを自覚することからはじめなければならぬと思ひます。そして、日々の生活の中で、ねばり強く、部落差別の現実を明らかにしていくことであり、同時に、一人の女性の自殺をめぐってかかれた部落差別を暴き出した映画『沈黙の夏』が、部落解放同盟東京都連によって製作された。すでに都内六カ所での上映をおえ、各所で大盛況だったといわれています。

都会に住む人々の日常生活の中でおこされる愛と苦悩を描くことを通じて、この映画は人々の人間としての生き方の選択を鋭く迫っているといえるでしょう。また、私たちの日常的な意識の点検をせまっているように思えます。

差別の現実に対する無自覚は、日々こうした差別を拡大していくでしょう。このような映画を通じて明らかにされた部落差別の現実を頭の中にだけとどめておくならば、同じ結果しかもたらさないでしょう。

では、この無自覚をどう克服

国家権力の暴力装置 監獄

責任という形で一応の結着を、そして今年の野党発言があり、またこの間法務省は、監獄法の改悪策動を著々と進めており、少年法の改悪もけん案とされている。

このように法務省は、ブルジョア国家権力の強化を、刑事法体系の全面的な再編改悪によって、刑法改悪に反対してきた日弁連系、全面的な再編改悪によって、その突破口と連がどのような役割を担おうとしているのか、注目をあつめた。

われわれの生活の、あらゆる面で進行している政治反動は、国家権力の強化、その暴力装置としての監獄法を、ますます明らかにせざるにはおかない。それは世界的な激動の時代にあつて、日本帝国主義の戦争準備が、暴力装置によって人民を抑えつけることを、不可欠の条件としているからである。バコや長髪、日返り外出も、今この刑法改悪の動きは、まさにこのことを公然と表明している。されるかのごとく報道し、部分的に代用監獄の問題を指摘するの

見えないところで進められている戦争準備

「刑法」監獄法改悪を許すな！

多くの死刑囚の声を監獄にとこめるといふ点です。代用監獄は、国際刑事法学会（一九七九年九月西ドイツのハンブルクで開催）でもその存続を指摘され、即時の廃止を決議されています。

第二点は、奴隷労働にも等しい監獄内の無賃労働を基本的には変革することなく、そのまま維持

読者の通信

二日からの一週間にわたる反対同盟の闘いは、敵味方の力関係の均衡の中で、確実に反対闘争の側の勝利までがんばりました。最後この勝利を確信し、すでに陽の落ちた首都のデモ行進に出発した。すべての読者の皆さん、十月十

この間、二五日には、光州蜂起の首謀者とされた学生、市民五名に内乱罪一死刑判決、七名に無期、一六三名に二〇〇五年の極刑判決が下された。

「民主化を口実として吹きあられる暴政、それをあおる日本帝国主义、日本の労働者階級、人民はこれからの日韓民衆連帯の中味を左右する重大な歴史のたぐいに立たされている。金大中氏らすべての「政治犯」救出のために、在日韓国人、朝鮮人との共同した闘いを基礎として、朝鮮人民の生血をすする日本独占資本とその忠告者一同盟などの労働貴族を打ち倒し、安保粉砕、朝鮮の自主的平和統一を支持し、日帝の在韓資産の無条件放棄をかかげ、巨万の大衆行動を真剣に準備しなくてはならない。

国家権力の暴力装置 監獄

責任という形で一応の結着を、そして今年の野党発言があり、またこの間法務省は、監獄法の改悪策動を著々と進めており、少年法の改悪もけん案とされている。

このように法務省は、ブルジョア国家権力の強化を、刑事法体系の全面的な再編改悪によって、刑法改悪に反対してきた日弁連系、全面的な再編改悪によって、その突破口と連がどのような役割を担おうとしているのか、注目をあつめた。

われわれの生活の、あらゆる面で進行している政治反動は、国家権力の強化、その暴力装置としての監獄法を、ますます明らかにせざるにはおかない。それは世界的な激動の時代にあつて、日本帝国主義の戦争準備が、暴力装置によって人民を抑えつけることを、不可欠の条件としているからである。バコや長髪、日返り外出も、今この刑法改悪の動きは、まさにこのことを公然と表明している。されるかのごとく報道し、部分的に代用監獄の問題を指摘するの

見えないところで進められている戦争準備

「刑法」監獄法改悪を許すな！

多くの死刑囚の声を監獄にとこめるといふ点です。代用監獄は、国際刑事法学会（一九七九年九月西ドイツのハンブルクで開催）でもその存続を指摘され、即時の廃止を決議されています。

第二点は、奴隷労働にも等しい監獄内の無賃労働を基本的には変革することなく、そのまま維持

国家権力の暴力装置 監獄

責任という形で一応の結着を、そして今年の野党発言があり、またこの間法務省は、監獄法の改悪策動を著々と進めており、少年法の改悪もけん案とされている。

このように法務省は、ブルジョア国家権力の強化を、刑事法体系の全面的な再編改悪によって、刑法改悪に反対してきた日弁連系、全面的な再編改悪によって、その突破口と連がどのような役割を担おうとしているのか、注目をあつめた。

われわれの生活の、あらゆる面で進行している政治反動は、国家権力の強化、その暴力装置としての監獄法を、ますます明らかにせざるにはおかない。それは世界的な激動の時代にあつて、日本帝国主義の戦争準備が、暴力装置によって人民を抑えつけることを、不可欠の条件としているからである。バコや長髪、日返り外出も、今この刑法改悪の動きは、まさにこのことを公然と表明している。されるかのごとく報道し、部分的に代用監獄の問題を指摘するの

見えないところで進められている戦争準備

「刑法」監獄法改悪を許すな！

多くの死刑囚の声を監獄にとこめるといふ点です。代用監獄は、国際刑事法学会（一九七九年九月西ドイツのハンブルクで開催）でもその存続を指摘され、即時の廃止を決議されています。

第二点は、奴隷労働にも等しい監獄内の無賃労働を基本的には変革することなく、そのまま維持

国家権力の暴力装置 監獄

責任という形で一応の結着を、そして今年の野党発言があり、またこの間法務省は、監獄法の改悪策動を著々と進めており、少年法の改悪もけん案とされている。

このように法務省は、ブルジョア国家権力の強化を、刑事法体系の全面的な再編改悪によって、刑法改悪に反対してきた日弁連系、全面的な再編改悪によって、その突破口と連がどのような役割を担おうとしているのか、注目をあつめた。

われわれの生活の、あらゆる面で進行している政治反動は、国家権力の強化、その暴力装置としての監獄法を、ますます明らかにせざるにはおかない。それは世界的な激動の時代にあつて、日本帝国主義の戦争準備が、暴力装置によって人民を抑えつけることを、不可欠の条件としているからである。バコや長髪、日返り外出も、今この刑法改悪の動きは、まさにこのことを公然と表明している。されるかのごとく報道し、部分的に代用監獄の問題を指摘するの

見えないところで進められている戦争準備

「刑法」監獄法改悪を許すな！

多くの死刑囚の声を監獄にとこめるといふ点です。代用監獄は、国際刑事法学会（一九七九年九月西ドイツのハンブルクで開催）でもその存続を指摘され、即時の廃止を決議されています。

第二点は、奴隷労働にも等しい監獄内の無賃労働を基本的には変革することなく、そのまま維持

国家権力の暴力装置 監獄

責任という形で一応の結着を、そして今年の野党発言があり、またこの間法務省は、監獄法の改悪策動を著々と進めており、少年法の改悪もけん案とされている。

このように法務省は、ブルジョア国家権力の強化を、刑事法体系の全面的な再編改悪によって、刑法改悪に反対してきた日弁連系、全面的な再編改悪によって、その突破口と連がどのような役割を担おうとしているのか、注目をあつめた。

われわれの生活の、あらゆる面で進行している政治反動は、国家権力の強化、その暴力装置としての監獄法を、ますます明らかにせざるにはおかない。それは世界的な激動の時代にあつて、日本帝国主義の戦争準備が、暴力装置によって人民を抑えつけることを、不可欠の条件としているからである。バコや長髪、日返り外出も、今この刑法改悪の動きは、まさにこのことを公然と表明している。されるかのごとく報道し、部分的に代用監獄の問題を指摘するの

見えないところで進められている戦争準備

「刑法」監獄法改悪を許すな！

多くの死刑囚の声を監獄にとこめるといふ点です。代用監獄は、国際刑事法学会（一九七九年九月西ドイツのハンブルクで開催）でもその存続を指摘され、即時の廃止を決議されています。

第二点は、奴隷労働にも等しい監獄内の無賃労働を基本的には変革することなく、そのまま維持

国家権力の暴力装置 監獄

責任という形で一応の結着を、そして今年の野党発言があり、またこの間法務省は、監獄法の改悪策動を著々と進めており、少年法の改悪もけん案とされている。

このように法務省は、ブルジョア国家権力の強化を、刑事法体系の全面的な再編改悪によって、刑法改悪に反対してきた日弁連系、全面的な再編改悪によって、その突破口と連がどのような役割を担おうとしているのか、注目をあつめた。

われわれの生活の、あらゆる面で進行している政治反動は、国家権力の強化、その暴力装置としての監獄法を、ますます明らかにせざるにはおかない。それは世界的な激動の時代にあつて、日本帝国主義の戦争準備が、暴力装置によって人民を抑えつけることを、不可欠の条件としているからである。バコや長髪、日返り外出も、今この刑法改悪の動きは、まさにこのことを公然と表明している。されるかのごとく報道し、部分的に代用監獄の問題を指摘するの

日本共産党は、ますます強まるソ米覇権争奪と鈴木戦時準備内閣の戦争準備「第一」の体制への攻撃のなかで、「日本の安全保障」について「精力的な提案を行ってき

80年代の安保

共産党の安保政策批判

第2回

「日本の安全保障をめぐり、この間の、安保問題に対するきわだった特徴は、ソ連のアフガン侵襲に対して「われわれは反対している」ということを、いかにソ連を擁護しながら印象づけ、同時に社会党との「ちがいを」うちだそうとしていることである。

非同盟・中立 自衛政策の本質とはなにか

日共は、日本の安全保障というものを前面にかかげ、次のようにいう。

「国会で討論し、国会の承認をえなう。それに対し八〇年代は、保守勢力が戦後第二の反動攻撃に、軍国主義とファシズムに歯どめをかけるか否か」というあらたな段階をむかえている、として、(こうした把握が、まったく主観的な七〇年代中期の「自共対決」路線の、大ウソのやき直しではないのならば、かかっている) 、「この情勢の把握のもとに、非同盟・中立・自衛の安保政策を、民主連合政府のもとで日米安保条約の廃棄にむけた道すじをみよ。」

「主権国家の自衛」の名によるブルジョア階級独裁擁護の手法

それでは彼らが従来よりはるかにふみこんだという安保条約廃棄後の「自衛」政策とはどんなものか。まず第一に自衛隊員を独立国家の主権擁護と民主連合政府を尊重するよう再教育し、国民世論の成熟を待つ。自衛隊の解散へ進む第一に侵略があったときは、国民の結集、警察力の動員、国民の抵抗闘争の組織化によって闘うとしている。

プロレタリア階級独裁を否定した現代修正主義者のおしやべり

こうしてソ連を美化している連帯という帝国主義本國の労働者階級の国際主義的態度を示すのでなく、むしろ「主権国家への侵略」の危険性を強調することによって、小ブルジョア階級の動揺を裏に結びつけようとしている。

「自衛権を行使する」と答える。そして、「自衛権」というのは民族固有のもので、戦力を放棄している日本でも主権の侵害があったときは可能な手段で撃退する」と、すなわち、日本をおびやかす二つの危険に対して、安保条約廃棄と「非同盟・中立・自衛」の態度をとっている日本共産党こそ「真の愛国者の党」であると主張しているのだ。

小ブル的 路線の沼地

それでは、最初の問題にもどると、日共は、日米安保条約第一の破棄通告以降一年を待たず米軍基地が撤去されるという希望を表明している。彼らは、日米安保体制の問題を単なる条約問題として切り、軍事同盟条約を廃棄する権利を、軍事的に自衛隊員が持つべきと主張し、自らのブルジョア階級の立場へと労働者階級を武装解除させ、権力問題に対する日和見主義を暴露している。

原則的労働運動の復権こそ

われわれは、このように、機関紙による思想統合および政治討論を組織活動のカナメにすえ、職場活動家と政治的意志統一を追求する一方、職場内外をつらぬく階級防衛のあらゆるあらわれに深く入りこみ、それらを階級闘争の広大なうねりへと合流させる闘いを組織していかねばならない。

単なる日米安保条約の廃棄の道すじと、それ以降の自衛権云々が問題なのではなく、暴力革命で日帝を打倒し、米帝を追放し、プロレタリア独裁を樹立して社会主義革命を実行することなのである。

労働者の手に 『革命の旗』を

われわれは、この作業に着手したところであり、理論と実践

奥深く、党の陣 型をつくりだせ 自治体労働者の 自治労〇〇細胞

運動の主流であった職場反共、権利擁護闘争が、日共の「住民奉仕者」論をふりまき、市民本位の行政」と称して当局の後おし部隊になりが、職場の労働者を合理化の工面にしようとしている。また社会党も、「合理化反対」をかかげているもの



日共の「自治体労働者」住民奉仕者論をふりまき、市民本位の行政」と称して当局の後おし部隊になりが、職場の労働者を合理化の工面にしようとしている。また社会党も、「合理化反対」をかかげているもの

単一のマルクス・レーニン主義党創建のための論戦

13

戦旗・共産同が「人民史観」に

こめた第二次ブンド克服の限界性

(中) その二

前回は、(4)の①のつづき、(4)の池とし、結合し、三重塚二期決戦を焦点化しつつ、一層の爆発を展を不可避としている。

②(1)をあげた。今回は、(2)展を不可避としている。

③(3)の一部をあげた。当初の三回で終える予定を変更し、四回連戦とし次回を最終回にする。

現在、労働者階級・人民の反戦・反安部闘争を基軸とした闘争は、全国の地域住民闘争、つまり三里塚闘争を頂点とする空港反対闘争と反基地闘争を反原発闘争を水たけ大・形成しつつ、反戦闘争・民主主義闘争・経済闘争を指導する。

反戦闘争・民主主義闘争・経済闘争の爆発・発展は不可避である。だから、我々は革命的な大衆行動を促し強め、「正規の攻囲」軍を一層大衆に創出してゆく見地に立ち大衆闘争のための党派共闘を更に拡大・形成しつつ、反戦闘争・民主主義闘争・経済闘争を指導する。

主たる闘争は、経済闘争の指導と結びつけて、綱領闘争を組織してゆかねばならない。要するに、帝国主義を全面的に暴露し、広く労働者階級・人民と結合してゆくことである。従って共闘問題を反戦闘争に限定せず、民主主義闘争・経済闘争にまで拡大せねばならない。

得のための闘争もますます激しくものになってゆく。⑤「帝国主義が寄生的なあるいは腐朽した資本主義」死滅しつつある資本主義。「帝国主義はプロレタリア社会革命の前後である」。

つまり帝国主義は、何よりも独占資本主義であり、賃金奴隷制の最高峰の発展であり、それをプロレタリア社会主義革命から防衛するブルジョア階級独裁のブルジョア国家の反動である。労働者階級・人民の闘争の中心は、依然として賃金奴隷制に反対し、反動に反対する闘争にある。このように、この闘争を基軸として帝国主義は、対外的な侵略と拡張をおこなうとする。この結果、帝国主義は帝国主義間戦争で相互に手を弱めあらし、第三世界の民族解放闘争と帝国内部におけるプロレタリア社会主義革命の勝利。今日では更に社会主義の前進に有利な条件を作り出すのである。

戦旗・共産同は、①②③④⑤をいまいにしている。見ていない。

④だけの把握では不十分である。以上から、侵略反革命(戦争)を阻止するためには自国帝国主義の打倒は必要であるが、しかならずに自国帝国主義の打倒のためには、侵略反革命(戦争)に反対する闘争だけでなく、賃金奴隷制とその独占化・強化に反対する闘争やブルジョア階級独裁のブルジョア国家とその反動化に反対する闘争が必要なのである。

現在、戦旗・共産同と我々は基本的に「日帝打倒・プロ独・社会主義革命」を共通の見地として確認している。さあ、この共通の見地から反戦闘争・民主主義闘争・経済闘争を指導し、我々をめぐってゆくべきではないのか。かかる方向へ進むことが、地域住民闘争の即時的結果である中核派の人民共闘や日帝打倒を欠落させた第四インターの全国共同闘争ときつぱり一線を引き、広く労働者階級・人民と結合し、大衆闘争の新たな党派共闘を建設してゆく道である。

帝国主義を全面的に暴露し 人民と広く結合しよう

ところが戦旗・共産同は、反戦闘争に限定すべきだと主張する。それを明らかにすれば、戦旗・共産同の「狭い政治的枠」を取りはらうことができる。

原因は帝国主義の一面の把握にあった。提起は「敵の攻撃が全社会的規模におよび、八〇年代侵略から歴史的に登場せしめられるのか否か、そここそわれわれの体制づくりに着手している」というように帝国主義を侵略反革命の闘争に一面化している。その結果、狭い政治的枠」を取りはらうことを目指しつつ、「三里塚・狭山の闘い、そして地域・職場・学園」の闘いも、日帝・大平による戦争への国民動員をめざした全社会的再編の一環としてあることを明らかにし、さまざまな領域での戦争にむけた人民への攻撃と対決する闘いであることをとらえ、これら自身の狭い政治的枠をとりはらわねばならないと述べている。結果からいえば、狭い政治的枠」を取りはらおうという提起は貫徹されなかった。

何故に、貫徹されなかったのか。向ではなく支配の傾向をいたるところにもたらし、この支配の傾向の結果は、あらゆる政治制度の下で全面的な反動を発生し、この面での矛盾が極端に尖鋭化することである。④「資本主義の発展が高度になればなるほど、原料はますます不足し、また全世界における競争と原料資源にたいする追求が尖鋭化すればするほど、植民地獲得の原動力をどの部分に求め、依拠しようとしているか。

戦旗・共産同は「人民に奉仕し人民の権利を守り、人民のためになることのみをおこなう」「人民の戦旗をかかげて」と党的姿勢

労働者階級を組織し M.L.主義党を建設しよう

戦旗・共産同は、社会主義革命の原動力をどの部分に求め、依拠しようとしているか。

戦旗・共産同は「人民に奉仕し人民の権利を守り、人民のためになることのみをおこなう」「人民の戦旗をかかげて」と党的姿勢

レーニンが帝国主義をどのよう把握していたか

それは、われわれと戦旗・共産同の論争点に則して、レーニンが帝国主義をどのよう把握していたかを明らかにしよう。

①「もし帝国主義にできるだけの簡単な定義を与えなければならぬならば、帝国主義とは資本主義の独占的段階であるというべきである。②帝国主義は「労働者を飢餓にひきずるほど、縮めつけ、他方で(一)そのと、反動的に(二)規定している。資本主義階級と組織労働者を除外した概念として人民を使っている。

全人民の党」論の限界性

これは彼らが「被抑圧人民・被差別人民の闘いに学ぶ」という正しさの、被抑圧人民・被差別人民・未組織労働者・被差別人民・在日朝鮮人・中国人、部落民、障害者、アイヌ、臨時工、季節工、社外工、貧民、漁民、沖繩人、(同)と規定している。資本主義階級と組織労働者を除外した概念として人民を使っている。

政策阻止革命論からプロ独・社会主義革命論へ転換しよう

戦旗・共産同は、「戦略的総路線」を「帝国主義の腐朽性に抗し、共同反革命を蜂起・内戦へ」から「帝国主義の侵略反革命を蜂起・内戦へ」に変更した。これは、一歩前進、一歩後退である。

何が一歩前進なのか。新しい「戦略的総路線」は、帝国主義の民族解放闘争に対する「共同反革命」だけを見て植民地の支配をめぐり対立・闘争を競っていること承認し、「侵略反革命」と表現した点である。これは当面する国際情勢論、ソ連論に於いて一歩前進である。

以前の「戦略的総路線」に比し、ソ連が「社会主義」を看板とする帝国主義として登場し、米・西欧・日本と植民地支配をめぐり対立・闘争を競っていることを承認し、「侵略反革命」と表現した点である。これは当面する国際情勢論、ソ連論に於いて一歩前進である。

「純プロ主義」の一面性

原因の第二は、彼らの「理論主義」といった批判の仕方にある。「純プロ主義」批判は、大旨「経済主義」「本主義」「前衛主義」などという三点の批判から構成されている。だがしかし、彼らは、三点の批判の内容を展開しえず、

「純プロ主義」批判は、大旨「経済主義」「本主義」「前衛主義」などという三点の批判から構成されている。だがしかし、彼らは、三点の批判の内容を展開しえず、

東峰だより

東峰団結小屋 〇四七六(三二)〇五〇五

菱田地区で工事が進められている。自前の基礎整備―実験田の作業を報告します。

実験田の工事は、反対同盟農業建設委員会の指揮のもとこれまで農作業の困難だった深い田に、暗渠(排水設備)をつくるものである。十月十二日に着工され、東京行動の期間中は休止していたが、二十六日に再開され、十月末に第一次工事は終了した。この間、毎朝八時半に三〇人ほどが手に手にスコップ、スコップをもって集まる。そして、まず田に「メートルほどの溝を掘る」ということから始める。ひとくちに溝を掘るといっても、これがなかなかつかない。田は同じ一枚の田でも土の状態が均質ではない。比較的固いところは掘り易いが、カマとよばれる水たまりのところで、万能やスコップは役に立たない。流れような泥をバケツでかきだし、バケツリレーで離れた場所へ運ぶ。大変な労働である。また、足のつけねまで入る泥田の中では、同じ

人民を支配している資本主義の賃金奴隷制とブルジョア国家のブルジョア階級独裁の本質をふまえて、帝国主義時代において、いよいよ多くの資本・生産手段がいよいよ少数の資本家に集中する独占資本主義と、いよいよブルジョア国家権力が肥大化し反動・差別を強めることを全面的に暴露する活動、すなわちブルジョア国家権力を打倒し、労働者階級が指導する全人民の武装で新しい国家権力を樹立し、資本家階級を打倒し、国家所有と集団所有の形態で生産手段を社会の共同所有へ移すプロレタリア階級独裁・社会主義革命を宣言・煽動し、労働者階級・人民を組織してゆくことが、まったく欠落している。

第二次ブンドの誤り

これは、第二次ブンドの「反帝闘争をプロレタリア革命へ」というスローガンに示された政策阻止革命論のものではないか。

戦旗・共産同は第二次ブンドの党的敗北を承認している。しかし党的敗北の根本原因をつかんでいない。我々は、ここに第二次ブンドの党的敗北の根本原因があると見、克服しようと提議した。

我々は革命共同派や社共をふみしだき独自の革命党建設をめざし勝利してゆくためには、政策阻止革命論を清算せねばならない。

おわびと訂正

本紙二七号二面の見出しで「9/17革命連」を「9/12」へ、四面の見出しで「非同盟・中立」を「非武装・中立」へ訂正します。